

このガイドブックのねらい

全国的に過酷な勤務により小児科医が不足し、社会問題となっています。

この小児救急ガイドブックは、お子さんが病気になったりケガをした時、症状にあった対応や医療機関での受診が必要かどうかの判断をする際に、保護者の皆様に役立てていただくため、作成いたしました。

これからも子どもたちが安心して受診できる小児救急医療体制を維持するために、ご理解・ご協力をお願いします。

このガイドブックは、お子さんが病気になったりケガをした時の状況に応じて、

- 様子を見たらうて、かかりつけ医や最寄りの病院等の診療時間まで待って受診すればいい程度なのか
- 医療機関ですぐに受診した方がいいのか
- 救急車を呼んだ方がいいのか

を判断するための目安をわかりやすくまとめたものです。

このガイドブックを上手にご利用いただくためにも、普段からお子さんの平熱やウンチの状態、顔色などを知っておきましょう。

目次

夜間休日急病診療所	3
かざぐるま休日急患・特殊歯科診療所	4
保健福祉センター案内図	5
休日当番医	7
上手なお医者さんのかかり方	8
小児救急医療体制の大まかな流れ	9
初期（一次）救急体系図	10

救急マニュアル

I. 病気編

38. 0℃以上の熱が出たとき	11
ひんばんに吐くとき	13
下痢をしたとき	15
お腹がいたいとき	17
けいれんをおこしたとき	19
発疹が出たとき（かゆみがある）	21
（熱がある）	22

II. 事故編

頭を打ったとき	23
誤飲・誤食をしたとき	25
やけどをしたとき	29
鼻血が出たとき	31
骨折の可能性があるとき	32
～ひとつでも多くの命を救うために～	
公共施設等・コンビニエンスストアにAEDを設置しています	33
救命講習のご案内	34
緊急時のためにメモしておきましょう	35
お子さんの症状で不安を感じたら	36